

## みなさんからの質問にお答えします！

質問	回答
このような説明会はいつごろ行っているのでしょうか。	秋から冬にかけては、国立大学法人等職員の仕事を知らせていただくための「仕事理解セミナー」を事務2回、図書1回、技術系1回開催しました。例年であれば、3月、4月には、採用予定機関等が合同で実施する説明会を各月1回開催しています。
4月18日（土）開催予定の関東甲信越地区合同説明会はいつから予約可能でしょうか。	大変申し訳ありませんが、関東甲信越地区合同説明会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催中止となりました。
国立大学法人等職員採用試験の対策や、どのように過ごしていたのか教えてください。	<p>(A) 試験前は、毎日数時間程度の試験対策を半年ほど行いました。既卒（転職）であったため、二次試験合格後は速やかに採用となりました。職員に実際に会って話を聞きたい場合は、各機関の人事担当部署や進路支援室等に連絡・相談してみるのもいいのではないかと思います。</p> <p>(B) 採用試験までは、市販の公務員試験の問題集を使用して、できるだけ毎日試験対策をするよう努めました。特に苦手だった知能分野の問題は、解法に慣れるため一日一題でも解くようにしていました。また、範囲が広いので、全ての科目を完璧にしようと考えすぎず取り組むことも必要だと思います。</p>
現在3年生ですが、今から対策を始めるのでは遅いでしょうか。	1年程度時間をかけて試験対策をされた方や、3か月程度の方など個人により様々です。決して遅くはないと思います。
春に大学3年生になりますが、何をすべきでしょうか。	試験対策については、上記回答を参考になさってください。
障害者手帳を持っていますが、受験は可能でしょうか。	受験することが可能です。
大学卒業時の年齢が28であり、社会人経験がないのですが、採用に影響することはありますか。	そのようなことはありません。 なお、令和2年度試験の受験資格は、平成2（1990）年4月2日以降に生まれた方となります。

出身地や出身大学と関係の無い地区での受験を考えていますが、不利になることはありますか。	そのようなことはありません。
第一次試験は地区ごとに受けて、第二次試験で希望の大学で個別面接を受けるといった流れで良いですか。また、第一次試験合格後の動きが不安です。どのようにして各機関と面接をするのでしょうか。	<p>ご自身が採用を希望する機関がある地区を選び、第一次試験を受験していただきます。</p> <p>第一次試験合格後は、受験した地区内の採用予定がある機関に個別に申し込み、第二次試験を受験をしていただきます。申込みの方法は、メール、電話、必要書類を郵送する場合があります。第二次試験の内容は様々ですが、面接試験が行われることが多いようです。また、面接の回数、形式（集団討論、集団面接、個別面接等）も機関によって異なります。申込方法を含めた詳細は、機関ごとにHP等で公表予定の第二次試験要項等をご確認ください。</p> <p>なお、図書区分は第一次試験合格後に専門試験を実施します。詳細は採用試験HP（<a href="http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/job/library/">http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/job/library/</a>）をご確認ください。</p>
複数の地区や大学の試験を併願することはできますか。	<p>地区の併願はできません。国立大学法人等職員採用試験は、第一次試験を全国7つの地区（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）で同日に行います。申込みができるのは一つの地区だけになります。</p> <p>第二次試験は、受験した地区内の採用予定がある機関に個別に申し込み、第二次試験を受験をしていただきます。選考日が重複しない限り複数機関の受験が可能です。</p>
事務と図書区分の併願は可能ですか。	併願することは出来ません。技術系も含めて、1区分のみの出願となります。
第二次試験が不合格となり、他の大学の採用予定に欠員が生じた場合、再度受験することはできますか。	受験が可能です。第一次試験の合格者は「第一次試験合格者名簿」に登載され、当該名簿は第一次試験合格者発表日から原則として翌年度の合格発表日の前日まで保管します。各国立大学法人等は、欠員が生じた場合にその都度、この名簿に基づき第二次試験を実施します。
第一次試験の過去問は公開されるのですか。また、難易度を教えてください。	<p>過去問の公開はしていませんが、第一次試験（筆記試験）の例題は公開していますので、こちら（<a href="http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/recruit/firststage/#mondai">http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/recruit/firststage/#mondai</a>）をご覧ください。</p> <p>難易度は、大卒程度の公務員試験と同程度です。ただし、第一次試験は教養試験のみです。</p>

<p>第一次試験の得点は第二次試験に影響するのでしょうか。</p>	<p>各機関の合否判定に関わる内容のため回答いたしかねます。</p>
<p>求める人物像や人材の特技・性格的な特徴はありますか。</p>	<p>国立大学法人等職員仕事紹介ガイドブックでは、P.23以降の各機関紹介ページにおいて、求める人物像に触れていますので参考にしてみてください。</p>
<p>技術系の試験区分を受験する際、専門知識の確認はどのように行われるのでしょうか。</p>	<p>技術系の試験区分を受験される場合であっても、第一次試験は教養試験のみとなります。第二次試験は、採用予定がある機関が個別に実施するため、内容等はそれぞれ異なります。なお、技術系については採用予定数とともに職務内容一覧 (<a href="http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/recruit/number/specification/">http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/recruit/number/specification/</a>) が公開されていますので、職務内容や求める専門知識などを事前に確認してください。</p>
<p>理系の知識は活かせますか。</p>	<p>国立大学法人等職員は、大きく事務系、技術系に分けることができます。技術系職員は、専門的な知識や技術を活かし教育・研究の支援を行います。なお、事務系職員でも理系学部出身の方が多く在職しています。</p>
<p>転勤はありますか。例えば関東から東北へといった希望転勤はできますか。</p>	<p>原則として採用された機関内での勤務となりますので、転勤はありません。人事交流として、一定の期間、他機関で勤務する機会を設けている機関もあります。</p>
<p>人事異動において、希望を出すことは可能でしょうか。</p>	<p>可能です。本人の希望や適性を考慮して人事異動が行われますが、大学の欠員等の状況によっては希望とは異なる場合もあります。</p>
<p>時期によっては残業があるかと思いますが、サービス残業はあるのでしょうか。</p>	<p>繁忙期には残業をすることもありますが、基本的にサービス残業はありません。残業代は各機関の規定に沿って支払われます。</p>

<p>なぜ国立大学法人等職員を志望したのですか。また、いつ頃から受験しようと考えたのですか。</p>	<p>(A) 大学は、教育・研究の現場です。またその成果を社会に貢献する役割がますます求められています。高等教育の現場で、学生や教員の支援等を通じて、大学の運営に関わり、地域や国全体の発展に貢献したいという思いから大学職員を志望しました。なお、採用試験の1年ほど前から受験を考え始めました。</p> <p>(B) 社会にとって重要な教育・研究を育む環境をより一層発展させたいという思いから大学職員を志望しました。そして、人が成長し、磨かれる大学という場に身を置くことで、自分自身も成長したいと感じたためです。</p> <p>(C) 教育・研究活動を通じて、地域に貢献するという大学の使命に強く魅力を感じたためです。また、常に最先端の教育・研究や人との出会いを経験できる場において、自分自身も勉強し刺激を受けながら仕事がしたいと思ったことも理由です。なお、採用試験を受けたいと考え始めたのは、試験の半年ほど前からです。</p>
--	--

<p>大学職員ならではのやりがいを教えてください。また、困難な課題に直面した時にどのようにして乗り越えていますか。</p>	<p>(A) 職員の仕事は多様ですが、自身が良い仕事をすれば、どのような形であっても必ず大学の運営や発展に繋がります。私はこれがやりがいだと感じています。</p> <p>困難な課題や想定外の出来事が起こることもたくさんあります。そのようなときに頼りになるのが、上司や同僚です。チームワークをもって仕事を進めていくように心がけています。</p> <p>(B) 大学職員の仕事は、どの仕事も大学を支えていくために必要な仕事です。直接学生と接し、笑顔を見られることはもちろんモチベーションにつながりますが、それ以外にも自分の仕事の結果的に学生や教員の授業や研究、生活を支えていると感じる瞬間があることは、大学職員のやりがいのひとつです。</p> <p>また、教育・研究の現場で、自分自身も新しい発見や出会いを経験しながら成長できる点も魅力です。</p> <p>困ったときや課題が生じたときには、ひとりで悩みすぎず、色々な方に相談し、意見を聞きながら向き合うようにしています。</p> <p>(C) 高度な教育・研究を肌で感じ、専門的知識を得て自身の成長に繋がることもあります。また、教員などはその分野のプロフェッショナルですが、職員は職員のプロフェッショナルとして、信頼されることがやりがいのひとつです。以前、困難な課題に直面した時は、同僚をはじめ、職員以外の他職種の方とも協力し、乗り越えることができました。</p> <p>(D) 人から感謝されるとやりがいを感じますが、仕事をする中で、学生、教職員などの学内関係者はもちろん、業務によっては学外の様々な方から感謝される機会もあり、よりやりがいを感じます。また、多様な仕事をする中では知らない分野や苦手なことに取り組むこともあるため、苦労もありますが、経験したこと、身につけた知識が、次の業務や部署において多少なりとも役に立ったときに自分の成長が感じられ、やりがいを感じます。</p> <p>仕事をおこなう中で困難な課題に直面したときは、上司や先輩、時には別の部署の同じような業務を担当する職員や知識のある人などに相談しながら課題解決に取り組んでいます。</p>
<p>大学職員の1日の主なスケジュールを教えてください。</p>	<p>配属される部署や個人により異なりますが、関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室で、仕事紹介ガイドブック (<a href="http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/download/">http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/download/</a>) を作成しています。ここでは、職員のスケジュールも掲載していますので参考になさってください。</p>

<p>仕事をする上で最も気を付けていることは何ですか。</p>	<p>(A) 大学の職員は、職員同士や学生さんだけでなく、教員、学外の方をはじめ様々な方と接する仕事をします。一言で伝わらないことも多くありますので、円滑なコミュニケーションを意識して仕事をしています。</p> <p>(B) 大学職員の仕事は多岐に渡り、一緒に仕事をする方も部署により異なりますが、どの仕事も部署間の連携が不可欠です。色々な立場の方の意見を聞き、コミュニケーションを大切にしながら仕事をするのを心がけています。また、学生の抱える課題などは千差万別なので、よく話を聞き、困ったときには、すぐに周囲の方に相談をするようにしています。</p> <p>(C) 大学等には学生だけでなく、教員をはじめ、様々な職種の方がおり、また仕事上では自機関以外の方と関わりながら仕事をしますので、相手の立場に立って物事を考えるよう心掛けています。勿論、仕事をする上で、正確性は必要ですが、予想しないトラブルが起こることもありますので、チームで話し合い、チーム一丸となって対応します。</p> <p>(D) 業務の中には、ミスをすると組織全体や組織外の多くの人に影響するものもあるため、そのような業務をおこなう際にはミスがないことが当たり前であるように気を付けています。</p>
<p>入職前後のギャップはありましたか。</p>	<p>国立大学法人等職員の仕事は非常に多岐にわたります。就職前は、教務やキャリア支援など学生支援の仕事しかイメージ出来ていませんでした。</p> <p>就職後は、大学職員の仕事には、一般企業と同じように総務・人事や財務・会計といった管理の仕事、附属病院の運営に関わる仕事など様々な仕事があることに気付かされるとともに、仕事の多くは様々な部署の職員と連携し協力しながら進めていく必要があることを知りました。</p> <p>ジョブローテーションを通して、様々な立場から大学の運営を考えていく視点を養うことができることがとても魅力的だと感じます。</p>
<p>国立大学法人等職員として、どのような目標がありますか。</p>	<p>(A) 幅広い視野をもって大学の運営に携わりたいので、今後も様々な部署で新しい仕事に挑戦したいです。</p> <p>(B) 組織をマネジメントできるような人材となり、所属大学の今後の発展に貢献できるようになりたいです。</p>

<p>大学職員として活躍されている方の特徴を教えてください。また、大学職員として働く中で、どのようなときに成長を感じますか。</p>	<p>(A) 関東甲信越地区内の65の国立大学法人等の機関同様に、個性豊かな職員が集まっています。特に傾向等は無く、多様な方が活躍されています。国立大学法人等職員の仕事の多くは、学生、教員及び他部署の職員など様々な方と連携して行うものが多くあります。このような仕事を行う中では、コミュニケーション力や調整力が必要となります。自分だけで仕事を進めるのではなく、協力して仕事を行う姿勢が身についたと感じます。</p> <p>(B) 一概にこういう人が多いと言い切ることは難しいのですが、人事異動が多い職場のためか、気さくな方が多い印象です。大学職員の仕事は業務の幅も広く、様々な職種の方と一緒に大学運営を行っているため、多様な能力や経験、個性を持った方の力が必要となります。その中でも、学生や教員、他部署の職員など様々な立場の方の意見を聞きながら仕事をするが多いため、自分の意見を持ちつつも他者の意見に耳を傾ける大切さを知ったように感じます。</p>
<p>職場の良いところはどこですか。</p>	<p>(A) 部署によって、また上司や同僚によって大きく雰囲気は変わります。 参考までに、現在の職場の良いところは、風通しが良く何でも相談ができ、明るく楽しく仕事をするところです。</p> <p>(B) 教育・研究の最前線の現場ともいえる大学で仕事をしているため、普段は出会わないような方にお話を聞いたり、学生たちの成長を間近で見たりすることができ、非常に刺激に溢れた職場だと感じます。</p>

<p>公務員、民間企業や私立大学等と国立大学法人等との違いは何でしょうか。また、国立大学の強みは何ですか。</p>	<p>国立大学は、様々な社会状況に対応し、国の政策・施策を支えるとともに、社会の発展に貢献する高等教育機関です。法人化に伴い、国からの支援を受けながら、各機関が自主自律性を発揮し、それぞれの達成すべき目標に向かって様々な取組を行うことができるようになりました。国の政策・施策に基づき、各大学がそれぞれの特徴を活かした教育・研究を通して社会が必要とする人材育成や研究を行うことができることが強みと考えます。</p> <p>公務員は多様な公共サービスに関わりますが、大学では教育・研究の支援に特化しています。財政面では、国からの支援を受けて運営されることから、利益だけではない公共的価値の追求を行うことが民間企業とは異なる点です。</p> <p>また、国立大学は、すべての都道府県に設置され、各地域の社会・経済・産業・文化・教育・医療・福祉の拠点として貢献してきました。地域創生が重要課題となっている今日では、地域の国公立大学の連携の中核拠点としての役割・機能を果たすことがさらに求められているといえます。</p>
<p>日本では大学の主要ターゲットである18歳以下人口がこれから減少していくという懸念もありますが、国立大学でも社会人をターゲットとする機関の更なる充実など窓口を広げていく考えはありますか。</p>	<p>18歳以下人口の減少に伴い、新たな志願者の発掘や優秀な留学生あるいは社会人の入学を考える必要があると思います。</p> <p>各国立大学の役割によって、様々な工夫が行われていくことと思いますが、社会人については大学での学び直し機能の強化が必要であると考えられており、これまで以上に積極的に取り組む大学もあるかと思えます。</p>
<p>国立大学で抱えている課題やそれを解決するための取り組みがありましたら教えてください。</p>	<p>現在、日本は少子化による生産年齢人口の減少や高齢化、過度な一極集中などによる地方の活力の低下などの課題に直面しており、国立大学には知と人材が集約する地域連携の中核拠点として、その役割を果たすことがさらに求められています。</p> <p>各大学の具体的な目標や計画については、文部科学省HP等からご確認ください。</p>
<p>大学職員として、大学の将来像を決定するような仕事や教授の研究費、学部ごとの資金等の予算を決定する仕事等に携わることはできますか。</p>	<p>職員は様々な業務経験を積み、将来的には大学の経営や組織をマネジメントする役割が期待されています。大学には、機関を発展させるための企画・立案に関わる部署や、大学の予算に関わる部署もあり、本人の希望や適性を考慮し配属先が決定されます。ただ、大学の欠員等の状況にもよるので、必ずしも希望通りになるとは限りません。</p> <p>予算の決定等に職員としてどの程度関われるかは、機関によって異なりますが、どの仕事も必ず大学の発展につながる重要なものです。</p>